

研修参加報告書

令和6年5月28日

会派名 江南クラブ
会派代表者 稲山 明敏

参加者：牧野 行洋

研修参加の結果について、次のとおり報告します。

年月日	令和6年5月20日（月）～21日（火）
研修時間	5月20日（月）13:00～17:30 5月21日（火）9:25～15:00
研修場所	全国市町村国際文化研修所（JIAM）
研修内容	自治体決算の基本と実践～行政評価を活用した決算審査～ [2日間コース] 5月20日（月） 13:00～17:15 自治体決算の意義と審査のポイント 武庫川女子大学経営学部 教授 金崎 健太郎 5月21日（火） 9:25～15:00 行政評価等を活用した決算審査 静岡県立大学経営情報学部 教授 小西 敦

研修参加報告書

■目的

1年間の議員活動において、予算・決算の重要性を認識したことから、予算書・決算書を読み解く力を高めるため、この講義に参加する。

■内容

5月20日（月） 13:00～17:15

自治体決算の意義と審査のポイント

武庫川女子大学経営学部 教授 金崎 健太郎

自治体の予算・決算から、多くの指標や数値を用いて解説・分析し、財政状況を判断するために注目すべき項目や、重要な指標について、財政に関する法律と照らし合わせて理解を深めるための講義。

自治体の限られた財源を真に必要な施策に適切に配分するため、政策の費用対効果を客観的に評価することが不可欠という観点のもと、指標を用いて自治体の健全性などを総合的に評価する手法についての講義。

講義の最後に、グループワークを行い、標準とする自治体の財政力と、研修に参加している市町の財政力指数について議論し、最後はその内容を発表することにより具体的に政策評価を体験する。

5月21日（火） 9:25～15:00

行政評価等を活用した決算審査

静岡県立大学経営情報学部 教授 小西 敦

令和5年度の地方自治法改正や、交付金申請におけるKPIやPDCA、ウェル・ビーイングやEBPMなどの実施状況や事例を踏まえながらの解説、藤枝市における予算常任委員会と事業評価などの事例が紹介され、議員が自治体予算の編成や審議において、行政評価の手法をどのように実践的に活用できるかの理解を深めるための講義。

グループワークを行い、各市の行政評価の状況と藤枝市などの事例を知った上で、どう行動するのかについて議論し、最後はその内容を発表することにより行政評価を体験する。

■所感

○自治体決算の意義と審査のポイント

多くの数値や指標を用いて自治体の財政状況を解説・分析し、予算・決算において、注目すべき項目や、重要となる指標（例えば、財政力指数は、自治体の財政力を示す重要な指標として取り上げられ、この値が高いほど財政に余裕があるとされる。実質収支比率は、自治体の収支が黒字か赤字かを判断する際の基準となり、この比率が一定水準を下回ると財政が硬直化する可能性がある。）について確認し、比較を行うことで、財政運営上の課題や改善点を浮き彫りにする手法について理解した。

実質公債費比率が高い自治体は、歳出の中で公債費の占める割合が大きく、他の事業費などに振り分けられる財源が制約を受けやすくなるという点には注意が必要となる。当然にして、公債費の比率が低い方が、財政運営の自由度が高まり、財政力があるとみなされるため、補助制度等においてはその配分を受けにくくなることなど、財政評価のみではなく交付率などの考え方についても理解した。

グループ議論では、これらの指標を用いて自らの自治体の健全性を総合的に評価するとともに、他の自治体との比較を行った。私の属するグループでの議論は、数値も重要だが、各市の地理的条件（山間部の有無や大都市圏に属すかなど）がかなり大きな要素を占めるという意見が出た。

講師から、「自治体は議会と市民の了解を取って税金を使用し、サービスを提供するので、余っても不足しても説明が求められるのが、民間の決算と違う」「数値の良し悪しだけでは、各自治体の特殊状況を反映していないので、それを念頭に置く必要がある」という言葉があり、私自身が予算や決算に関して議員活動を行う中で、留意すべきポイントを新たに得ることができた。

○行政評価等を活用した決算審査

藤枝市（市長の理解を得て、議会として決算と予算のそれぞれに対して常任委員会を立ち上げ、9月に前年の施策・事業の評価をし、次年度施策に執行部に提言、執行部が予算にその提言を反映する）の事例は、市民の想いが議会を通じて行政施策に反映される仕組みであり、市民の市政に対する信頼度と関心度、関与の割合を高めるとても良い取組であると感じた。

江南市でも5カ年計画などにおいてKPIの手法を採用している。そこから導き出される行政評価結果をしっかりと活用し、予算審議として市に提案できる体制を導入したいと感じた。

この当局に予算案を提案する仕組みは、全国的に実行している市はあまり多くないようであるが、規模に関係なく、それほど手間がかからないという調査結果を聞き、江南市への導入提案について、意欲が湧いた。

グループ議論では、「藤枝市の事例のように行うのは、議員の負担と準備が大変」という意見もあり、まずは、各市で議員と会派において、予算の提案をするようにするのはどうかという結論になった。

「行政評価は法律で義務付けされておらず、各自治体の裁量に任されている。それ故に、目的が重要で、市民に対する行政の説明責任、効率的で質の高い行政の実現、成果重視の行政への転換を基軸として、各議会が評価して何に使うかというのが重要」という言葉が印象に残った。

実効性、運用性、継続性を含めて、江南市にどういう形で導入するのが最適であるのか、どのように提案していくかを、この研修を通じて自問自答する中で、自分自身がさらに理解を深める必要があると認識した。